

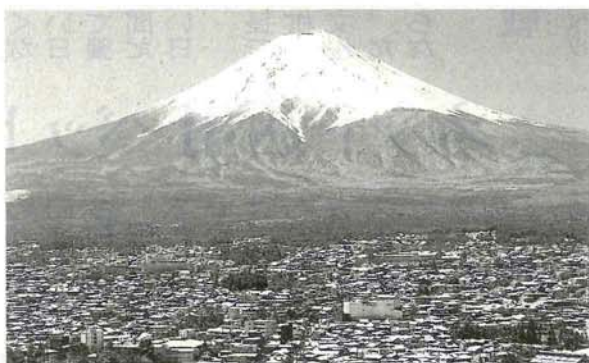
# ジャンボ渡辺の学 富士山

3年間にわたり、世界文化遺産に登録された富士山の多様な魅力や価値、そして課題をお伝えしてきましたが、今回が最終回です。

富士山の現状を見て感じるのは「日本人は富士山を世界の宝として、守り伝えていく覚悟があるのか？」ということとです。世界文化遺産登録後、国内外から多くの観光客や登山者が押しかけるようになりまし。登山道の荒廃や登山中の事故の増加、山麓のごみ放置などの問題が未解決のままです。

世界文化遺産登録はゴールではなくスタートです。美しい富士山の環境を守るため、行政や観光業者などに任せきりにするのではなく、地元住民やNPO、企業も巻き込んで

## 文化的・宗教的な価値



晴天に輝く富士山=15日、富士吉田市新倉



復活した清流で遊ぶ子どもたち。石を動かすとサワガニが飛び出てきた=2015年8月、静岡県三島市、渡辺豊博さん提供



渡辺豊博さん

# 世界の宝、守る覚悟はあるか

手前みそですが、身近な自然環境を復活させた例のひとつに、私が主宰するNPO法人「グラウンドワーク三島」の活動があります。かつて「水の都」といわれた静岡県三島市は、富士山からの湧水が地元の企業によって工業用水として大量にくみ上げられるようになりまし。湧水は減り、水辺の環境が汚れていきました。きれいな故郷を取り戻したいと、市民有志が源兵衛川のごみ拾いを始めたのは1991年のことです。

で知恵を結集させることが大切です。観光振興や経済的な発展だけが優先されてはいけません。富士山に関わる人々が利害で対立するのではなく、協調する必要があります。

かつて「水の都」といわれた静岡県三島市は、富士山からの湧水が地元の企業によって工業用水として大量にくみ上げられるようになりまし。湧水は減り、水辺の環境が汚れていきました。きれいな故郷を取り戻したいと、市民有志が源兵衛川のごみ拾いを始めたのは1991年のことです。

25年たった現在、5月下旬には千匹以上のゲンジボタルの乱舞が見られます。夏休みには、子どもたちが橋から川に飛び込む歓声が響きわたります。

また、環境再生は観光振興にもつながりました。静岡県の調査では、2014年度の三島市の観光交流客数は約620万人と、20年前の約174万人から大幅に増えました。そして地方都市で目立つ商店街の空き店舗は、三島市の中心地ではほぼゼロです。末永く美しい富士山の環境を守るため、私たちも富士山頂への登山だけでなく、文化的、宗教的な価値を幅広く学び直していきましょう。富士山がかげがえのない存在とより理解できれば、愛情が増すはずです。ご愛読ありがとうございます。 〓おわり

わたなべ・とよひろ  
都留文科大教授